

レンジフード取付説明書

取扱説明書・取付説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

安全上のご注意

- 取付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他人への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大ききと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすることと生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

警告： 人が死にまたは重傷を負う可能性が想定される内容。

注意： 人が傷害を負う可能性及び物的損害のみの発生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

- 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
- 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

警告

- 修理技術者以外の人、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをすることがあります
 - アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください
 - 自然排気型のストーブを使用するときは給気口の取入口（給気口）により十分な給気（配気）を確保すること
排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起すおそれがあります
 - 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります
 - レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラッパ網など）と接触しないよう取り付けると漏電した場合、発火するおそれがあります
- 交流100V以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります
 - 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
 - メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けると漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
 - 本体とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは、所轄の消防署に問い合わせてください
 - レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります

注意

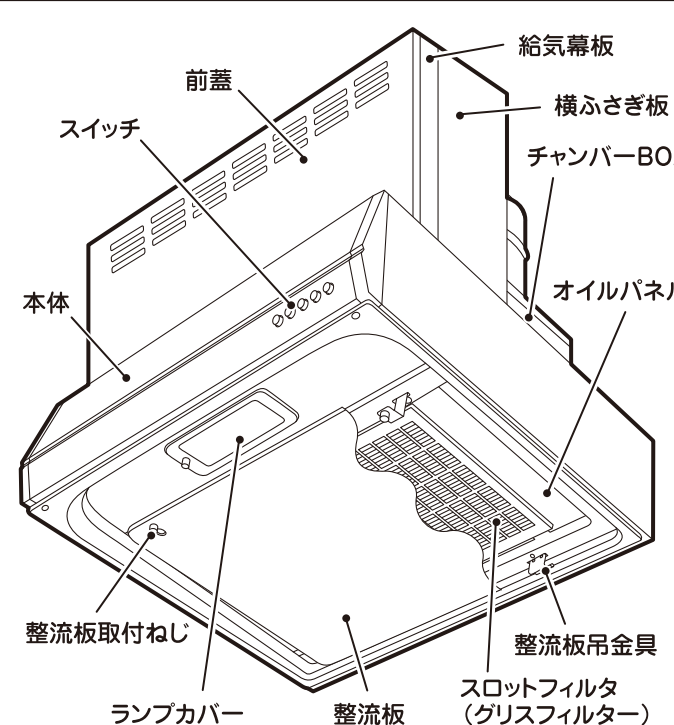
- 運転中は指や物を絶対に入れないこと
けがをすることがあります
 - レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実に落とすこと
落下によりけがをすることがあります
 - 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります
- ファンや部品の取り付けは確実に落とすこと
落下によりけがをすることがあります
 - 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをすることがあります
 - 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）
感電および故障の原因になります

取り付け上のお願い

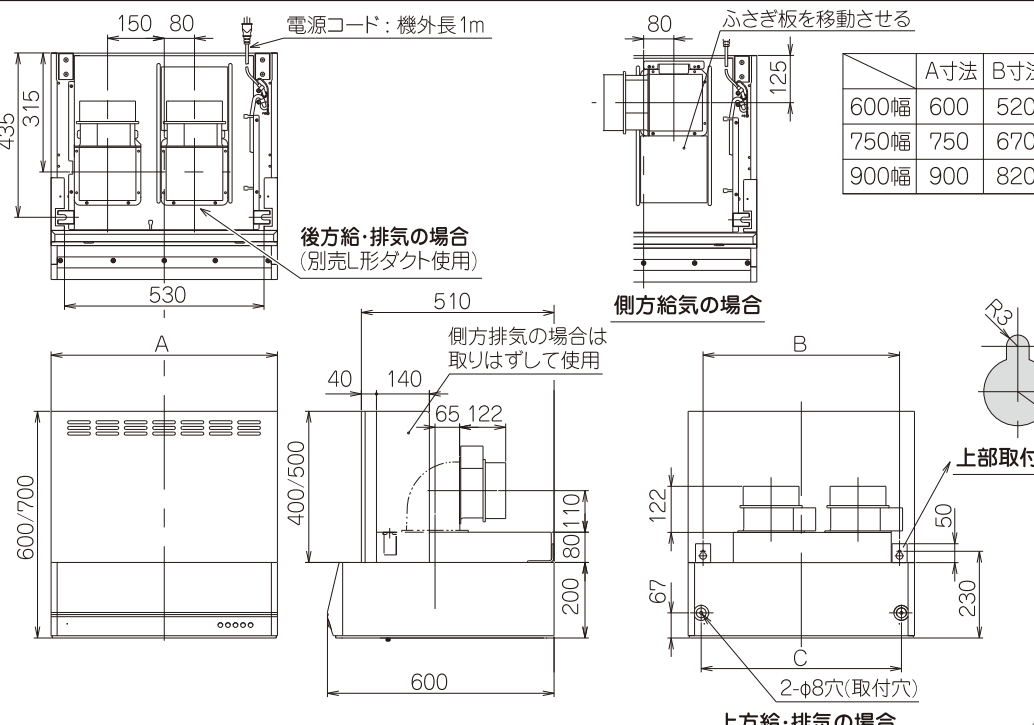
- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。
 - 大工工事（設備のための下地工事等）
 - 配線工事（コンセントの設置、コンセント・コネクタ利用以外の配線接続等）
 - 管工事（ダクト配管及びレンジフードからのダクト接続等）
- 流通業者（販売店）を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。

- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。
調理機器はレンジフードの前面より手前に出して設置しないでください。排気効率が低下します。
- 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けてください。
火災・故障の原因になります。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は400m³/h時50Pa以下のものをご使用ください。
防雨網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- ダクトの不燃処理について
 - ダクトを50mm以上の不燃材料、または20mm以上の国土交通大臣承認品の不燃材料で被覆してください。
 - 施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」「検査要領書」に従ってください。
- 製品は調理機器の真上に取り付けしてください。
なお、製品取付高さには、製品の下端が調理機器の真上80cm以上になるようにしてください。
- 寒い地域ではダクトが結露し体内に結露水が流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をしてください。
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効果をいじるしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- レンジフード取付面の補強部に、取付用ねじが確実に届くことを確認してください。
本体の取付用ねじは45mmの長さのものと同梱されていますが、壁下地に石膏ボード等が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取付用ねじが確実に補強部に届くことを確認してください。
また、レンジフード本体取付面には必ず不燃材を使用してください。
- レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けしないでください。
また、横方向50cm以上離して取り付けください。湯沸器の真上は高温になるため故障の原因になります。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約400cm³程度の空気取入口を設けてください。
- 部屋の中央で調理される場合は、油煙が捕集されませんので、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。

各部のなまえ



製品寸法図



付属品

品名	略図	用途	品名	略図	用途
座付ねじ	φ5.1x45 4本	本体の取り付けに使用します。	ソフトテープ	2本	給・排気口とダクトのすきまをふさぐのに使います。
取付ねじ	M4x8 10本	横ふさぎ板や給気幕板の取り付けに使います。	給気口	1個	本体と給気ダクトの接続に使います。
取付ねじ	φ4x8 (1種) 2本	横ふさぎ板と本体の取り付けに使います。	排気口	1個	本体と排気ダクトの接続に使います。
吊金具	2個	本体の取り付けに使用します。	横ふさぎ板	2枚	用途に応じて使います。
天吊金具	2個	本体の取り付けに使用します。	給気幕板（前置）	1個	本体に取り付けます。

取り付けかた

1. 付属品の確認

注意

- 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをすることがあります
- 梱包箱から付属品を取り出し右上面の付属品の一覧より不足がないか確認します。
- お願い** 取り付け作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。

2. 本体の準備

- 整流板をはずします。
整流板を固定している左右の整流板取付ねじをゆるめます。
整流板取付ねじがだるま穴の中心位置までくよう整流板を上側にずらし、開きながら整流板吊金具からはずします。
- スロットフィルタをはずします。
フィルタ押さえをランプカバー側にスライドさせ、スロットフィルタのつってを持って、ランプカバー側や上側に引いてはずします。
- オイルパネルをはずします。
オイルパネル取付ねじ2ヶ所をゆるめ、上に持ち上げながら本体の引掛け部からはずします。

3. 給・排気方向の決定

警告

- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けると漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります
- 本体とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは、所轄の消防署に問い合わせてください

- 製品寸法図を参照し、事前に管工事業者（法的有資格者）へ壁穴の開口を依頼してください。また、コンセントの位置を確認してください。
- φ150のステンレスダクト、またはスバイラルダクトを下図のようにレンジフードの上面に突き出すようにセットして、周囲を仕上ります。（コンクリート、タイル、土壁の場合）

4. 給・排気用部品の準備

- （側方及び後方給気の場合は別売部品のL形ダクトを使用）
- ※ 壁面からの寸法は、ふさぎ板の位置を変えることによって2種類の給気位置が選択できます。（125/315mm）、但し壁面から125mmの後方給気は取り付け出来ません。
- 給気位置を変更する場合
- チャンバーBOX上面に取り付けてあるねじ6本をはずし、ふさぎ板、差込金具をはずします。
 - ふさぎ板、差込金具の位置を換えて、下図のように取付ねじ6本を締め付けます。
- 上方給気・排気の場合
- 給・排気口に付属のソフトテープを貼り付けます。
 - 給・排気口をチャンバーBOX上面の差込金具に確実に差し込み、取付ねじ4本で取り付けます。（取付ねじはあらかじめチャンバーBOXに取り付けてあります）
 - 給気口のコネクタ接続部に信号線の3Pコネクタを接続し、排気口のコネクタ接続部に信号線の2Pコネクタを接続します。
- お願い** コネクタの接続は確実に行ってください。接続が不十分だと正しく給気・排気が出来ません。
- 側方および後方給気・排気の場合（別売部品のL形ダクト2個を使用します）
- ソフトテープを給・排気口に貼り付けます。
 - L形ダクトに給・排気口を取り付けます。
給・排気口はL形ダクトに付属の取付ねじ（M4x8）4本で取り付けます。（本体への取り付けは後述をご覧ください）
- お願い** 給・排気口の取り付けの際、コネクタの接続部が下向きになるように取り付けてください。

5. 本体の取り付け

- 吊金具を取り付けます。
本体上面に付属品の吊金具を、取付ねじ4本で確実に固定します。（取付ねじはあらかじめ本体の吊金具固定部に付いてありますのではずしてご使用ください）
- 天吊金具を取り付けます。
チャンバーBOX側面に付属品の天吊金具を、ねじ4本で固定します。（取付ねじはあらかじめチャンバーBOXの天吊金具固定部に止めてありますのではずしてご使用ください）
- だるま穴座付ねじをねじ込みます。
だるま穴位置（2ヶ所）に付属品の座付ねじ（φ5.1x45:2本）を壁面との隙間5mmまで締め付けます。
※だるま穴座付ねじのもう2本は（5）で使います。
- フランジ付き六角ナットを取り付けます。
天吊ボルト（2本）にフランジ付き六角ナット（2個）を取り付けます。
※天吊ボルトとフランジ付き六角ナットは取付作業側で手配願います。

- 本体を取り付けます。
天吊ボルトをチャンバーBOXの天吊金具（2ヶ所）に差し込みながら、だるま穴用座付ねじに本体を引っ掛けます。
- 座付ねじを固定します。
付属品の座付ねじ（φ5.1x45:2本）で本体取付用穴（2ヶ所）をしっかりと締め付け、（3）の座付ねじ（2ヶ所）もしっかりと締め付けます。
- （3）の天吊ボルトを固定します。
フランジ付き六角ナット（2個）で（4）の天吊ボルト（2本）を締め付けます。
※ フランジ付き六角ナットで本体上面をさはします。

6. ダクトと給・排気用部品の接続

- お願い** ドリリングタッピンねじなどで給・排気口を固定する場合は、シャッターにねじがあたらないように図のドリリングタッピンねじ使用範囲内に固定してください。
- 上方給気・排気の場合
風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。
- 給・排気口設置面の漏風確認のお願い
給・排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードの給・排気口を接続しようとすると、給・排気口と給・排気口の設置面（本体面等）が変形し、排気漏れが発生してしまう場合があります。給気・排気漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転（強運転）をおこなってください。漏風する場合は、給・排気口と設置面の周りをアルミテープ等（現地手配）で漏風防止処置をおこなってください。
- 側方および後方給気・排気の場合
- 給・排気口を取り付けたL形ダクトをチャンバーBOXの差込部に差し込みながら、ダクトに挿入し取付ねじ（M4x8）4本で取り付けます。（取付ねじはあらかじめチャンバーBOXに取り付けてあります）
 - 風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。
 - 給気口のコネクタ接続部に信号線の3Pコネクタを接続し、排気口のコネクタ接続部に信号線の2Pコネクタを接続します。
- お願い** コネクタの接続は確実に行ってください。接続が不十分だと正しく給気・排気が出来ません。

7. 電気配線

警告

- 修理技術者以外の人、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをすることがあります
 - アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください
 - 交流100V以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります
 - 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- アース（D種接地工事）を取ります。
※アース線は取付作業側に手配してください。
 - 分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。
- お願い** ● 電源は専用のコンセント（2極接地極付差込接続器 15A、125V）およびブレーカーを設けてください。
● コンセントは、電源コードの長さを考慮して設置してください。

取り付け前の調査と準備

警告

- 修理技術者以外の人、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをすることがあります
 - レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラッパ網など）と接触しないよう取り付けると漏電した場合、発火するおそれがあります
 - 本体とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは、所轄の消防署に問い合わせてください
- 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります
 - レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります
 - 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります

注意

- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実に落とすこと
落下により、けがをすることがあります
- 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをすることがあります
- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります

- 取付面の強度確認
……… 製品を支える強さが必要です。
 - 板張りの場合
● 板厚が20mm以下の場合には壁に補強板を埋め込み補強板にレンジフードを取り付けてください。
● 板厚が20mm以上の場合は補強板の必要はありません。
 - コンクリート、タイル壁の場合
● あらかじめ補強板を壁に埋め込んでおくか、カールプラグ等を使用し固定してください。
 - 土壁の場合
● 柱などに固定した補強板をあらかじめ壁に埋め込んでください。
 - 吊りボルトの設置
2本の吊りボルトを右図および製品寸法図を参照して天井部に取り付けます。
※吊りボルトはM10（市販品）を使用してください。
※吊りボルトは耐荷重200kg/本となるように取り付けてください。
 - 別売部品の準備
排気工事に応じた別売部品の準備が事前に必要です。
 - 標準取付寸法
本製品の標準取付寸法は調理機器の上面から製品の下端まで80cm以上です。
※グリッドフィルタの下端が調理機器の真上80cm以上必要となります。
 - 電源コンセント・ブレーカー
電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。（交流・単相 100V）
コンセントは、JIS C 8303 2極接地極付差込接続器（15A 125V）をご使用ください。
- お願い** 必ずアース（D種接地工事）をしてください。レンジフードが誤動作することがあります。

8. 給気幕板の取り付け

- 横ふさぎ板を取付ねじ（φ4x8 1種）にてフード内面より取り付けます。（横ふさぎ板は2枚付属されていますので施工条件により使用枚数及び取り付け方法を決めます）
- 前蓋の取付ねじをゆるめ、給気幕板から前蓋を取りはずします。
（はずしたねじはあとで取り付けに使います）
- 給気幕板をチャンバーBOXに押し当てながら取付ねじ6本で固定します。（横ふさぎ板を取り付けた場合は、給気幕板と横ふさぎ板を取付ねじ2本で固定します）
※ 横ふさぎ板を2枚使用する場合は、取付ねじを4本使用します
- 前蓋を給気幕板の切り欠き部に引っ掛けて（2）のはずした取付ねじ2本で取り付けます。

9. 組み立て

- オイルパネルを取り付けます。
オイルパネル後方の引掛け部を本体に引っ掛けてからオイルパネルを閉じ、手で支えながらオイルパネル取付ねじ2ヶ所を締め付けます。
- スロットフィルタを取り付けます。
オイルパネルの溝部分にスロットフィルタを差し込み、フィルタ押さえを奥側にスライドさせて固定します。
- 整流板を取り付けます。
整流板引掛け金具を整流板吊金具に引掛け、整流板取付ねじを整流板のだるま穴に通してから整流板を後方に押し込み、整流板取付ねじを締め付けます。

10. 試運転

- 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。
スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
- 運転時、各通風の排気が正しく行われていることを確認してください。
- 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
- 屋外の排気出口から排気されていることを確認してください。
- 取り付けまたは各種工事に発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますのでご注意ください。

11. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様にお渡しください。

製造元：富士工業株式会社
〒252-0206 相模原市中央区淵野辺2丁目1番9号
TEL 042(768) 3754（営業部）